



第3回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点国際シンポジウム

“Japan-Asia Symposium of Materials, Devices, and Systems Directed Towards Energy and Environmental Sciences”

九州大学先端物質化学研究所・教授

永島 英夫

炭素資源国際教育研究センターは、現実的エネルギーである炭素資源の環境負荷なき高効率利用を目的とする科学技術、エネルギー基盤技術国際教育研究センターは、炭素資源エネルギーと再生可能エネルギーのベストミックス構築に向けて、エネルギー変換・貯蔵（熱電・光電変換、蓄電・蓄熱）、省エネルギー（IT省エネ・住空間省エネ）、創エネルギー（複合自然エネルギー、高密度自然エネルギー、海洋エネルギー）技術等の学際融合によるグリーンイノベーションの実現を目指す科学技術、をミッションとするセンターで、ともに協力してグリーンアジア国際戦略プロジェクト（および、グリーンアジア国際リーダー教育センター）を研究面から支援しています。平成25年度から、3センターで連携拠点を形成し、協力して教育研究を実施しています。これらの3センター連携の一環として、一昨年度の第1回、昨年度の第2回に引き続き、第3回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点国際シンポジウムを、エネルギー基盤技術・炭素資源両センター主催、グリーンアジア共催により、平成28年11月30日（水）に九州大学筑紫キャンパスの筑紫ホールで開催しました。

本シンポジウムには、中国、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、モ

ンゴル、日本から講師を招へいし、多数の教員や学生が参加して活発な討論が行われました。成長著しいアジアは、また、エネルギーの効率利用と環境保全技術の普及が強く求められています。3センターはJSTさくらプログラムでも、環境・エネルギーの日本の先端技術を基盤とした人材育成を実施していますが、今回の講師は、これまで3センターと連携して教育、研究、短期人材交流を実施してきた研究機関から招聘しています。シンポジウムでは、エネルギー政策、太陽電池、エネルギー変換・貯蔵、化石燃料、バイオディーゼル、蓄熱、太陽光発電等、多岐に渡った内容の講演が行われ、エネルギー基盤技術を中心に炭素資源技術をリンクさせる内容で開催されました。終日、様々な分野の参加者による多面的で活発な討論が続き、学際融合の観点からも非常に有効な議論が行われました。

最終的に、シンポジウムの参加者は合計102名となり、国際シンポジウムとして成功裏に終了しました。エネルギー基盤技術国際教育研究センターと炭素資源国際教育研究センターは引き続き、密接に国内外の関連研究機関と連携を密にし、九大におけるエネルギー研究の一翼を担うことを目指していく予定です。

